

## 実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
大田原市	両郷地区 (大久保・久野又地区)	令和3年3月25日	令和4年2月10日

## 1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	106.24 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	59.53 ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	25.03 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	11.21 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	- ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	25 ha
(備考)	

## 2 対象地区の課題

地区内に認定農業者が少ないため、今後の集積・集約化を考える上では、認定農業者だけではなく農業者全体で考えていかなければならない。地区外からの担い手もいるが、今以上の規模拡大は見込めない。地区の大部分で獣害（イノシシ）に悩まされており、電気柵導入や、それに伴う草刈りの手間で耕作意欲が減退している。

この地区で取れる両郷米は食味が良いが、出荷時には他の米と統一されてしまうので、差別化が図れない。

高齢化、後継者不足、そして近年の米価の下落が、より一層離農を加速させている。

## 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

大久保地区については、多面的機能支払制度に取り組んでおり、今後も農業だけに留まらず、地域住民が一体となり農村集落の景観保全を目的とした地域活動を続けることにより、地域農業を維持していく。

久野又地区については、地域活動において集落内の草刈等は適正に行っており、この取組を維持しつつ、将来的には多面的機能支払制度に取り組むことも念頭に地域農業を維持していく。

## 4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

## 多面的機能支払への取組方針

大久保地区では、耕作放棄地の発生防止、地域のコミュニティ形成及び景観の維持につなげていくためにも、当該活動を引き続き継続させていく。

久野又地区では、集落内の草刈り等は適正に行っており、また地域のコミュニティも強いため、将来的に多面的機能支払に取り組んでいくことを検討していく。